

厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）
分担研究報告書

当院における血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者の現状

研究分担者 今橋 真弓

NHO 名古屋医療センター臨床研究センター感染・免疫研究部 感染症研究室長

研究要旨

当院定期通院中の血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者について後方視的に臨床情報を収集した。

2025 年 3 月時点で当院に通院中の HIV/HCV 重複感染患者は 9 人、全員男性で血友病 A が 5 人、B が 4 人である。2025 年 3 月時点での年齢中央値は 47 歳であった。直近の CD4 数中央値は $633/\mu\text{L}$ 、78%が HIV ウイルスを検出感度未満に抑制していた。HBc 抗体陽性は 5 人、抗 HBV 治療歴は 9 人全員であった。内科的 HCV 治療歴は 4 人で、全例が SVR 達成。1 例は肝腎同時移植歴があった。未治療例も全員 HCVRNA 未検出で自然排除と推定された。

A. 研究目的

当院における血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者の現状を報告することを目的とした。

B. 研究方法

当院定期通院中の血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者のリストから電子カルテにて後方視的に臨床情報を収集した。

現状報告のため、統計処理は行っていない。
(倫理面への配慮)

実施にあたり、疫学研究に関する倫理指針を遵守し、研究対象者に対する人権擁護上の配慮、研究方法による研究対象者に対する不利益、危険性の排除に留意した。

C. 研究結果

1) 患者背景

2025 年 3 月時点での当院通院中の血液製剤による HIV/HCV 重複患者は 9 人で、全員男性である。年齢の中央値は 47 歳(範囲：43 歳～67 歳)であった。原疾患は血友病 A が 5 人、血友病 B が 4 人であった。全員 ECOG の Performance status は 0 であった。2025 年 3 月時点で全員生存している。

2) HIV 感染症

直近の CD4 数の中央値は $633/\mu\text{L}$ (範囲：67～900)でウイルスコントロールは 7 人(78%)が検出感度未満を達成していた。

3) B 型肝炎について

9 人のうち 5 人(56%)が HBc 抗体陽性であった。8 人(89%)が 3TC、1 人(11%)が TAF による治療歴を有していた。

4) C 型肝炎について

9 人のうち 4 人(44%)に C 型肝炎治療歴があった。治療歴のあった 4 人のうち、3 人が Group1、1 人は不明であった。治療の内訳は pegIFN+RBV(1 例)、DCV/ASV(2 例)、LDV/SOF(1 例)であった。4 症例とも SVR を達成している。

1 例は肝移植症例であった。本症例は肝硬変+腎不全をきたし、肝腎同時移植を行った。

内科・外科治療歴のある 4 人はいずれも HCV ウイルス量は未検出である。

残り 4 症例は HCV 陽性ではあるが、ウイルスは未検出で、自然排除されたと考えられる。

D. 考察

HIV 非感染者と比較して HIV/HCV 重複感染者は自然排除に至る率が低下する

ことは知られている。当院の症例では HCVRNA 量検出せずを達成できている。HCV 感染症による最大の問題は肝細胞癌発症である。今後も Fibroscan 等有用な検査法を用いて早期発見に努める必要がある。

E. 結論

当院通院中の血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者 9 人について後方視的にまとめた。治療歴のある患者はいずれも SVR を達成し、治療歴のない患者は HCV 自然排除されていることがわかった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Yokomaku Y, Noda T, **Imahashi M**, et al. Antiretroviral therapies and status of people living with HIV in Japan: An update from hospital survey and national database. *PloS one* 2025; 20(1): e0317655.
2. Iwatani Y, Matsuoka K, Ode H, et al. The unique structure of the highly conserved PPLP region in HIV-1 Vif is critical for the formation of APOBEC3 recognition interfaces. *mBio* 2025: e0333224.
3. Ode H, Matsuda M, Shigemi U, et al. Population-based nanopore sequencing of the HIV-1 pangenome to identify drug resistance mutations. *Sci Rep* 2024; 14(1): 12099.
4. Uno S, Gatanaga H, Hayashida T, et al. Virological outcomes of various first-line ART regimens in patients harbouring HIV-1 E157Q integrase polymorphism: a multicentre retrospective study. *J Antimicrob Chemother* 2023; 78(12): 2859-68.
5. Otani M, Shiino T, Hachiya A, et al. Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and

genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. *J Int AIDS Soc* 2023; 26(5): e26086.

6. Nakata Y, Ode H, Kubota M, et al. Cellular APOBEC3A deaminase drives mutations in the SARS-CoV-2 genome. *Nucleic acids research* 2023; 51(2): 783-95.
7. Mizuki K, Ishimaru T, **Imahashi M**, et al. Workplace factors associated with willingness to undergo human immunodeficiency virus testing during workplace health checkups. *Environ Health Prev Med* 2023; 28: 52.
8. Masuda M, Ikushima Y, Ishimaru T, **Imahashi M**, Takahashi H, Yokomaku Y. [Current Issues of Laws Concerning HIV/AIDS Control in the Workplace]. *Sangyo Eiseigaku Zasshi* 2023; 65(6): 366-9.

2. 学会発表

1. **今橋真弓**「女性のPLHIVの健康を考える」第38階日本エイズ学会学術集会・総会 シンポジウム2 2024年11月28日（東京）
2. **今橋真弓**「HIV流行終結に向けた医療者側の取り組み」第38回日本エイズ学会学術集会・総会 共催シンポジウム1 2024年11月28日（東京）
3. **今橋真弓**「医療現場における多文化共生とは？～文化のカオスで仕事をすること～」名古屋市立大学 SDGセンターシンポジウム 2024年12月23日（名古屋）

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし